

第17回「看護・リハビリテーション研究会」を開催しました

医療法人社団 健育会 理事長 竹川 節男



2023年3月4日（土）、第17回「健育会グループ 看護・リハビリテーション研究会」を実施。今年は初めての試みで、グループの各病院施設から会場100名、WEB形式100名というハイブリッド開催となりました。

当日はTKPガーデンシティPREMIUM神保町にて、健育会グループの病院・施設の職員が対面とリモートの両方で参加し、1年間の研究成果を発表しました。前半は看護部門から9演題、後半はリハビリテーション部門から8演題を発表。さらに参加者からの質疑応答によるディスカッションも活発に行われ、非常に有意義な研究会となりました。

はじめに、私から開会の挨拶を述べました。



第17回の研究会は多くの職員の方が参加されて本当に嬉しく思います。3年間続いたCOVID-19にも負けず、病院によってはクラスターと戦いながら、日常業務と直接関係のないこの研究を続けてきた皆さんの努力に大変感服しています。

今日の研究発表、抄録を読む限り、その病院らしい発表、また患者さんの立場に寄り添った発表が多く見られます。健育会グループが目指す「親身な対応」という観点からの研究題材ですから、その成果をぜひ患者さんに還元してください。

一方、テーマの掘り下げ方については次のステップへ移行する時期であると感じました。今後は業界の常識や定説に一石を投じる研究発表、先行研究の事例でなく自ら新しく研究発表を行うテーマを期待したいと思います。既存のデータや日頃の悩みの蓄積からテーマを選定することで、深掘りしたテーマが見つかりやすくなるので頑張ってください。

私は、医療人は科学者だと思っています。科学者は論理的な思考を身につける必要があります。論理の矛盾は必ず事故につながります。患者さんを改善させたい、患者さんの夢を叶えたい、という科学者としての探求心こそが論理的な思考の源になります。今日の質疑応答の中で論理的な質疑応答が活発に行われることを期待します。

前半は、看護部門9チームによる研究発表です。コロナ禍ならではの課題から日常業務での実感や疑問に沿った研究テーマまで、多岐にわたる発表が行われました。

発表《前半》



**回復期リハビリテーション病棟における
認知機能低下がみられる患者の睡眠障害の改善と
意欲向上に対するアロマセラピーの効果
—スイートオレンジ精油を使用して—**

石川島記念病院
木村有那



**回復期リハビリテーション病棟入院患者への
アドバンス・ケア・プランニングの話題提供によ
る関心や思いの変化**

石巻健育会病院
遠藤千恵



**認知症高齢者の自宅退院支援アセスメントツールの
作成**

花川病院
堀井愛美



**直接面会できない家族に対する
看護師の統一した関わりの影響
～信頼関係の構築～**

いわき湯本病院
石上綾子



回復期リハビリテーション病棟における騒音とは

ねりま健育会病院
土屋光平



**サンキューカードを活用した居場所の提供
～承認から得られる看護師・介護士の心理的変化
～**

湘南慶育病院
渡部直美



**個人用防護具(PPE)を着用した
医療従事者の対応が入院患者に与える影響**

西伊豆健育会病院
渡邊典子



時間外労働が少ない看護職員の特性について

熱川温泉病院
中嶋晴香



**回復期リハビリテーション病棟における
入院時のせん妄アセスメントの検証**

竹川病院
岸本恵美

前半の各発表・質疑応答を終え、座長の叶谷由佳教授（横浜市立大学医学部看護学科老年看護学）から、全体の講評と各病院施設への丁寧な講評をお話しいただきました。ここでは全体の講評をお伝えします。



コロナ禍で大変な中、1年間看護の質の向上のために研究された方々に敬意を表します。とても良い発表でした。私は今年度8月19日、20日開催の日本看護研究学会で大会長を務めます。例年通り、健育会の皆さんもこの学会でも発表頂けること楽しみにしています。毎年、回復期リハビリテーション病棟や療養病棟、地域包括ケア病棟関連の発表は健育会グループだけです。リハ病棟や慢性期病棟に関してのオピニオンリーダーになるのは皆さんだと思っています。厳しくも温かい激励の期待に沿えるようぜひ頑張ってください。

続いて健育会の宮寄雅則副理事長より、総評を頂きました。



現場の実践を通じた看護業務の改善向上や更なる発展が期待される研究、コロナ禍で患者さんや家族の不安が大きい中、親身な対応を実践する上で大変意義深い研究などが多く見られ、とても良かったです。その他も、日常業務での実感や疑問に沿って研究が行われ、チャレンジングな演題などテーマも多岐に渡り、大変興味深く拝聴しました。

一方で研究方法の選択、介入、調査対象の選定、結果と考察の関係、プレゼンの独自性の主張やスライドの作り方、発表方法など工夫が必要なところもありました。

日頃から健育会グループの1人1人が探求心を持ち、科学的、論理的な考察力を身につけることが大切ですから、ぜひ健育会グループの文化にしていきたいと思います。その意味で研究発表だけではなく、質疑応答やディスカッションも大切です。質疑応答は前回よりも大変活発で時間が足りないくらいだったので、とてもよかったと思います。

後半は、リハビリテーション部門8チームによる研究発表です。患者目線のテーマ選定や既存の事柄への疑問提起など基本を踏まえた重要な研究が多く発表されました。また継続研究や共同研究の継続も見られました。

発表《後半》



透析患者が困難に感じている ADLのセルフ・エフェカシーとCOPMの関係性

西伊豆健育会病院

藤巻龍



Welwalk介入による 脳卒中後片麻痺者のFAC改善

竹川病院

櫻井瑞紀



当院回復期病棟における外出自立に関するCBAの 有用性

熱川温泉病院

椛正貴



座位での臀部の除圧方法の探索 —体圧測定器を用いた基礎的研究—

ねりま健育会病院

佐藤舞



当院通所リハビリテーションの効果と利用期間

いわき湯本病院

蛭田健吾



当院回復期リハビリテーション病棟退院後に 当院通所リハビリテーションを利用されている方 の身体機能の変化について

石巻健育会病院

岡田悠貴



脳卒中後の座位保持困難な症例に対する ReoGo®-Jを用いた 体幹機能訓練効果～クロスオーバーデザインを用 いた検証～

花川病院

片桐一敏



人事考課制度による職務へのモチベーションの 影響

湘南慶育病院

金森輝光

後半の各発表・質疑応答を終え、座長の山崎康太郎先生より丁寧な講評をいただきました。



継続研究や日々の疑問に基づく研究が多く、共同研究も継続されていて非常に好感を持ちました。一方で厳しいお話も少し。批判的な論理性と統計の感覚は非常に重要で、欠けてしまうと思い込みによる治療を招きかねません。つまり自分の発表に対する反応や疑問をたくさん想定することが大切です。また合同研究会では実践における示唆が要求されます。判断や行動が変わる知見を共有することが学術の意義です。また次の対応を考えることでデータの取り方が変わってきますので経時変化を追ったり、介入量と機能の関係を見たりなどを心がけましょう。全体に、データを取って違いを見て表面的に言えることを言って終わっているものが目立ちました。予備研究は実を結ばなくてもおかしくありません。これは個別の発表の問題ではなく組織的な問題で、演題選考や予演会の質を高める必要があると感じました。

続いて、健育会の宇都宮啓副理事長より総評を述べていただきました。



興味深い話題が多く非常に面白かったです。昨年と比べて今年は分かりやすい発表が多く、補足も工夫されていて良かったです。仮説や目的を明記した上で評価方法や基準が記されていたのも、基本的ですがとても重要だと思いました。

研究はそれ自体を高度に複雑にしようと思いがちですが、ねりまの「座位での臀部の除圧方法の探索」などは単純な中にも画期的な発見があり、非常に素晴らしかったです。

そのほか、主観的な評価が客観的なものに合致するかという熱川のテーマや、既存のものに対して疑問を持ついわきの研究姿勢もよかったです。花川と竹川の共同研究は継続されて素晴らしいですが、パターン化しないよう別の角度も取り入れてみましょう。いわきの研究は症例が少ないので、他病院と共同して症例を増やすなど細かい分析ができるよう工夫してください。今日の発表をこれで終わりにせず、質問を予測して分析やデータの取得の必要性を考えることで次へ繋がっていきます。今日は非常に活発な議論があり、楽しむことができました。ぜひこうした姿勢で引き続き、疑問を研究に繋げてください。

大変興味深い演題が多く、充実した研究会になったと思います。本日の指摘を受けて、今後はより多角的なテーマ選定やデータ取得、細かい分析を目指した研究を期待しています。1年間、本当にお疲れ様でした。